

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる				
施策	1 - 1 公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	2	継続実施	4	見直し	0
各委員からの個別意見					
<p>新庁舎を含む公共施設は町民全体ライフラインの要であり、町民との合意形成が極めて困難であっても前に進める必要がある。公共施設再配置の見直しを精力的に進めること。本施策のK P Iとしての②に年少人口（15歳未満）の転入人数があるが、どのように評価する指標なのかが判らなくない。また、転入人数だけで評価は難しく、年少人口の社会移動数（転入 - 転出）で評価すべき。</p>					
<p>耐震未確認の地域集会施設数や15歳未満の年少人口の転入人数など概ね目標を達成している点は評価できる。東大果樹園跡地の利用はコロナの影響によりイベントの実施が難しいことが影響しているのであれば計画が未達成でも問題ないと思われる。また、「みらいはらっぱ事業」がスタートしたことで町民満足度調査への良い影響が期待できるのではないかな。</p>					
<p>新庁舎を含めた公共施設の再編については災害時の拠点になることを考えれば、早急に検討する必要がある。</p>					
<p>東大果樹園については、できるだけ多くの方が利用できるよう、長期的な活用方法について検討が必要である。また、次期計画の話かもしれないが、行政改革の推進の指標（耐震未確認の集会施設数）が適切でないと思う。</p>					
<p>今後想定される大規模地震や火山噴火などに対して、庁舎が安全な場所として確保されていない（耐震性や強度の問題がある）状況であれば、最優先で、新庁舎の整備を実施すべきである。集会所や避難所指定場所についても同様であるが、新庁舎への不安は多くの町民が感じているところと推察される。</p>					
<p>「年少人口（15歳未満）の転入人数」の計画人数が毎年10名程度増えているのは、どのような根拠によるものか、あるいはどのような措置に対する期待によるものか、確認ができればと思う。小児医療費助成事業に関する所得制限廃止は大変大きな変化であり、場合によりもっと増える可能性も期待できるのではないかな。</p>					
<p>東大果樹園跡地のイベントについては、コロナの影響を考えると仕方ないところと思うが、会場として使いにくい点があるのではないかなといった面で検討されて、必要な整備が行われることを期待する。</p>					
<p>小中一貫教育のメリットや効果について、広報誌などでも繰り返し説明をして頂けたらと思う。</p>					
<p>東大果樹園跡地は、主に限られた団体の方たちの活用が多いように感じるので、もっと誰もが気軽に行けて楽しめる場所作りを目指すが良い。</p>					
<p>町の財務内容が分からないが、インフラの整備については資産となるため、できる限り積極的に行ってゆくのが妥当かと思う。広場の活用については、地域の催し物でも課題になっているが、中学生と高校生が欠落しがちなので、そこへ向けての魅力的な企画が必要と考える。</p>					

施策に対する事前意見のまとめ①－ 2

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる				
施 策	1－2 地域で支えあう体制の構築				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	1	継続実施	5	見直し	0
各委員からの個別意見					
<p>認知症ケア（改善ツール）としての対面会話 A I、手話通訳をサポートする音声入力アプリや唇の形で入力する読唇アプリなど多くの技術ツールが紹介されていることから、I C T 戦略の一環として組入れてはいかがか。</p>					
<p>地域の通いの場の参加者や講習会への参加者数は計画を下回っているがコロナの影響を考えれば問題ないレベルと思われる。概ね計画通りに進んでいるのではないか。今後は地域包括ケアシステムの構築の町民の満足度調査結果も踏まえ、施策を進めていく必要がある。</p>					
<p>手話通訳者養成講習会の参加者数がKPIになっているのが有意義かどうか気になるが、小学校や中学校から、手話の重要性を伝えて、授業に取り入れる、あるいは、部活動としてそのような活動ができる部を創設するなどして、もう少し若い世代から取り組めるようにしてはいかがか。そうすると、参加者数という意味ではかなりの数になり、二宮町は福祉の街でもあるなどとアピールすることにもなるのではないか。何より若い世代に伝えることが重要と思う。</p>					
<p>コロナの影響で活動が制限されていることで評価を下げる必要はなく、この制限が無くなったときに円滑に再開されるようにしておくことが肝心。また、伝統や慣習に拠る相互扶助についても、評価をし、活用の可能性を探るべき。</p>					

施策に対する事前意見のまとめ① - 3

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる				
施策	1 - 3 地域コミュニティの醸成支援				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	1	継続実施	5	見直し	0
各委員からの個別意見					
<p>一色小学校区地域再生協議会がうまく機能している理由として、皆さんの出入りが少なく昔からの繋がりが良好である点が挙げられる。これに沿った地域組織の自主編成への意識は、一色地区に類する富士見ヶ丘地区や緑が丘地区と、近年の転入者の多い二宮地区では支援アプローチも異なってくるものと思われる。K P I ②地域活動に参加している人の割合（%）を地区ごとに評価し、各自治会との意見交換の中で一律ではなく臨機応変のアプローチが必要になってくると思う。</p>					
<p>全ての評価指標で100%を達成している点は評価できる。特に「住み続けたいと思う住民の割合」高い点は住民の満足度が高い事が予想されるので町の魅力が高まっていると思われる。</p>					
<p>消防団については委員からもコメントがあったように災害時に実際に参加できる団員の確保を新たな目標として設定しても良いのではないか。またwithコロナを見据えて活動内容や研修のあり方などについても見直しても良いと感じた。</p>					
<p>町民活動推進事業について、スタート支援補助金の活用団体が少ないということだが、活動をスタートするにあたり何がネックとなっているかを把握し、必要な支援をしていくことが新たな活動団体の増につながると思う。</p>					
<p>小学校の統廃合等が進むと、登校距離の延長などが生じることが懸念される。これから多くの若い世代が転入してきた場合に、あまりに迅速に統廃合を進めると、吸収できない可能性もある。また登校距離延長に伴い、登校バスなども必要となるかもしれないが、交通事故、置き去り等、リスクも増える可能性もあり、運用や管理でより大変になる可能性もある。将来的な町の姿を考えつつ、適宜幾つかの拠点で教育をする方向性についても可能性を消さずに検討をお願いしたい。</p>					
<p>お年寄りの地域活動、体操や娯楽などの集まりにはほとんどが女性だが、地域の役員となると男性の比率が多い、これすでに課題となっていると思うが、女性の登用をもっと進めるべきだ。一つの例として、今はコロナで行われていないが、地域の集まりの飲食で従来出していた酒は止めた方がいい、煙草については禁煙が広く認知されたが、酒についても同様に禁酒を広めることで女性の参加が増えるのではないかな。</p>					

施策に対する事前意見のまとめ② - 1

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる				
施 策	2 - 1 二宮らしい魅力の創出と発信				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	2	継続実施	4	見直し	0
各委員からの個別意見					
<p>好評とされている移住相談会、ここに参加される皆さんはどのように移住相談会を、どのように二宮町を、どれくらい二宮町をお知りになったのか、このあたりの分析は出来ているか。少なくともアンケートは取られていると思いたいが、このルート分析、動機分析を進めることで、更なる移住相談会への誘導が強化できると思う。好評な部分を更に伸ばすための課題に怠りの無いように進めること。</p>					
<p>観光を目的として年間50万人もの人が二宮町を訪れている。同時に文化事業鑑賞などでラディアンを訪れる町外からの多くの皆さんなどを含めて、二宮駅に降り立った皆さんにどのように二宮町を見ていただくのか、観光・文化・教育・医療・子育て環境などに相互誘導できるようなマップ・仕組み作りへステップアップすべき。</p>					
<p>二宮駅配置の観光マップに、にのみやlifeに誘導するQRコードを追加してほしい。</p>					
<p>主な事業に対する業績評価指標は概ね達成されている点は評価できる。この分野は全体的に町民の関心度が低い事が印象的であった。町全体で取り組みができるように広報活動に力を入れても良いのではないかと感じた。</p>					
<p>コロナの影響によりテレワークが促進され地方への移住者数が増加している中でうまくアピールできていると感じた。観光にも力を入れファンを増やす事が大切。町の魅力発掘のため町民以外にも協力を依頼しても良いのではないかと。</p>					
<p>課題となっている子どもの図書館利用率の向上について、何らかの取組が必要。コロナ禍でラディアンの利用率が低下したことは理解するが、オンライン活用や少人数の活動などにより生涯学習を促進する取組ができるとよいと思う。</p>					
<p>近年はこちらからHPの閲覧を待つよりも、拡散・展開できる仕組みがあるほうがよいようである。例えば、二宮町の「アンバサダー（魅力を知っていて、それを拡散、展開してくれるような方）」を設定することができればよい。二宮町アンバサダーの方には、SNSなどで情報展開していただけるようお願いしていくなどもよいと思う。</p>					
<p>インフラの整備は当然速やかに行うべきと思うが、過小評価されている観光資源、例えば吉田五十八のようなものは、もっと活用されるべきだった。個人の店舗でも魅力的なコンセプトの品揃えや企画に対しては、かなり遠方からのお客がやってきている。周りの町村を見回して成功しているものを模倣するのも必要だが、既にどこでも行って飽きられていることも自覚すべきだ。</p>					

施策に対する事前意見のまとめ② - 2

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる				
施策	2-2 特色ある教育活動の推進				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	2	継続実施	3	見直し	1
各委員からの個別意見					
<p>町民の関心は高いもののコロナの影響もあってか若干計画の達成度が低いと感じた。時代の変化に合わせた教育が必要となるため評価指標については再検討しても良いのではないかと。教育環境が充実すれば移住希望者の増加にも繋がるので積極的な取り組みが必要。</p>					
<p>基本目標のための施策として、特色のある教育活動の推進は、重要であると思うが、主な事業に挙げられている、小中一貫教育研究事業、英語教育推進事業、ICT教育推進事業のうち、小中一貫教育研究事業は特色があるのかもしれないが、効果等が十分か測りかねることから、それがなぜ魅力あるまちをつくることにつながるのかを理解することが難しいかもしれない。また、英語教育推進事業、ICT教育推進事業については、どちらでも実施されているように思われ、特色があるとは言いきれない面があるように思う。子供たちの文化力、芸術力、生活力、体力などの人生を楽しく過ごすため必要な力を育てる教育についての検討（事業計画）を考えることは今後難しいのだろうか。関連して、KPI②の数値をいかにして改善しようとしているのかわかりにくいところだが、KPI②の改善という面でもこのような将来の子供たちの生き方をベースに教育の特色を考えるのは重要と思う。</p>					
<p>教育者というのは思いのほか狭い範囲のことしか知らない、文部省の指針があるので自由度が少ないので実現が困難であったと思うが、社会経験豊富な人との時間をプログラムの中に組み込むことが出来たらいいと思っている。子供は案外魅力的な大人との接触の機会が少ないので、尊敬できる、あるいは惹かれる人物の警咳に触れれば、目標がはっきりし、それに必要な知識は自分で習得できるようになる。</p>					

施策に対する事前意見のまとめ③ - 1

基本目標	出産・子育てを支え、子育てを楽しめる環境をつくる				
施策	3 - 1 妊娠から子育てまでの切れ目のない支援				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	4	継続実施	2	見直し	0
各委員からの個別意見					
人口増減または少子化対策として直接評価できるK P Iがなく、各施策のK P Iが順調に 達成していても、人口が、子供が増えているのかが見えない。					
内閣府が指導する少子化対策、子育て支援策項目の中で、二宮町施策にないものとして、産科医等の確保等 産科医療システムの充実に関する項目がない。仮称大磯徳洲会病院での産婦人科への期待はあるが、二宮町としての産科医療システムの充実に向けた施策を設けるべき。					
将来の発展のためにとっても重要な施策。町民の関心も高く、また満足度が高いため継続して取り組んでいく必要がある。課題の部分でも指摘されているが、ヤングケアラーなど新たな課題に対応していく必要がある。この領域で成果をあげることで移住希望者が増加する可能性があるため規模を拡充して取り組んでいくべき項目ではないか。					
乳幼児個別訪問事業は、支援が必要かどうか把握できる貴重な機会なので、長引くコロナ禍でも何らかの方法で（訪問以外の方法でもよいので）全戸にコンタクトできるよう工夫していただきたい。ヤングケアラーの把握・支援にも取り組んでいただきたい。					
KPI①はコロナの状況でもあり、育児不安を抱えずに過ごせるよう、電話等でのサポートも頂いているところなので、「訪問率」ではなく「サポート家庭数の割合」に変えるべきだと思う。					
ヤングケアラーの子は相談がしたくても、なかなか出来ない子もいると思うので、そういった場案の学校等との連携や支援方法を検討していく必要がある。					
核家族で初めてのお子さんを出産して育てるのは凄く不安だと思う。お近くに何時でも何でも相談できる知人がいたら、かなり心強いと思うが、SNSで24時間対応してくれるセンターがあれば心強い。町で運営するのは難しいと思うが、すでに県や国でこのようなものを持っているのか。					

施策に対する事前意見のまとめ③ - 2

施 策	3 - 2 仕事と子育ての両立支援				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	0	継続実施	6	見直し	0
各委員からの個別意見					
<p>政策評価シート、基礎評価シートの各 K P I は概ね良好であり、子育ての環境は良くなっていると判断できるが、同時に良くない K P I もあり、これが継続すべき課題なのかは検討が必要と思う。現時点での改善された子育て環境において、子育てに頑張っておられる皆さんが、今、何に困り、どこに不安を持っておられるのかを早急に精査する必要がある。これら、今の課題を整理する中で、次期の戦略・政策が組み立てられていること、これが新たな県営住宅 1 4 0 戸にお迎えする環境として、新戦略の内容・構築のプロセスが見える形で進められるべき。</p>					
<p>保育園の待機児童数0人を継続して実現しており働きやすい環境を作っていると感じた。概ね成果をあげている分野だと思われる。</p>					
<p>少子化や価格高騰の中で、多くの子を育てている多子家庭への支援を拡充するなど、より魅力ある、子育てにやさしい街として注目されることにつながり多くの転入者につながる可能性があると思う。（平塚市の取り組み（第3子以降に支援）なども注目されていると思います。）既に、小児医療費助成事業に関する所得制限廃止を実現して頂いているが、これはほかの市町村でも行っているため、多くの子供を安心して育てることができる町というのをもひとつの目指す方向としては良いのではないだろうか。</p>					
<p>妻が専業主婦だったのと、子どもたちが立派に育ったとも思えないので、何を言うのも口幅ったいのですが、失敗したなと思うことは、会社人間で子供たちと一緒にいる時間が極端に少なかったことで、これは凄くまずかった。最善の施策は、両親の就業時間が短くて高い賃金が得られ、子どもとの時間が十分とれる環境を作ることだが、これは国家の問題で手に余る。次善の策として、子どもたちが一人でいる時間を少なくすることで、現在の対応をより強く押し進めることでしょう。</p>					

施策に対する事前意見のまとめ④ - 1

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる				
施策	4 - 1 地域商工業の活性化				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	2	継続実施	4	見直し	0
各委員からの個別意見					
<p>二宮ブランドの魅力とは何か、二宮ブランドに認定されることで具体的にどのようなメリットがあるのかが良く見えない。魅力を大きくすることで認定への意欲を増大させる、そこに更なる地域資源の活用拡大へ繋げる仕組みが必要と思う。二宮ブランドのコンセプトから、全国にPRできる仕組みとして二宮町ふるさと納税返礼品に採用する、町内へのPRとしては二宮ブランドロゴマークの店頭・店内掲示など、多くのアイデアが出てきてよいはずなので、もっと真剣にプロモーションしていくこと。</p>					
<p>地域商工業の活性化は概ね計画通りに進んでいるが、withコロナに合わせた新たな支援が必要と思われる。二宮ブランドをもっと活用し町の知名度を高めても良いのではないかと。言うまでもなく地域産業の活性化は、町の魅力を高め移住希望者への重要なアピールポイントとなるので、重点項目として取り組んで欲しい。</p>					
<p>次期計画の検討事項かもしれないが、現在の指標がアウトプット指標だけなので、町内事業者の雇用創出数や出荷高、観光消費額などアウトカム指標があると事業の効果が見えやすいと思う。</p>					
<p>KPI②（二宮ブランドの新規認定商品数）は、少しハードルが高く、活性化という意味では、そういった検討がなされているかどうかの数のほうがよいように思えるので、このKPI②を達成状況Dのままにしておくよりも「二宮ブランドの申請のための登録者数、あるいは、申請のための相談件数」とする、あるいは、二宮ブランドの認知度をKPIにするなどして、その認知度を上げる取り組みを推進するといった形でもよいのではないかと。</p>					
<p>二宮町独自なものとうそでないものを把握して、独自なものを育成することだと思ふ。最近では古民家を改装してカフェなどを作るケースが多いが、すでにこれはパターン化していて、よほど取扱商品の品質が他に類を見ないなどのレベルでないと残らないでしょう。</p>					

施策に対する事前意見のまとめ④－ 2

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる				
施 策	4－2 地域農林業の活性化				
二宮町政策評価委員会としての「評価」					
拡充	1	継続実施	4	見直し	1
各委員からの個別意見					
<p>R 3 年度の新規就農者が目標 2 名を超えて 3 名となったが、同時に遊休農地の解消実績は 0. 0 6 h a であることから、新規就農者の皆さんは自営農業ではなく賃金就労でなのか、それとも既存の就農者からの引継ぎなのか。K P I としての新規就労者カウントのみで農業振興事業の拡大を評価できているのかは疑問であることから、離農者との差し引きで評価すべき。</p>					
<p>有害鳥獣の捕獲数は減少、被害数が横ばいであったことから評価指標は「C」であったものの効果は認められる。新規就農者数とオリーブの生産量も概ね計画通りで、地域農林業の活性化は概ね計画通りに進んでおり評価できる。</p>					
<p>町内の林業はどのような状況なのか。また、オリーブを町の特産品とするためには、知名度アップ、販売数の増が必要なので、まずは足元の町内から、授業でオリーブについて学んだり、各家庭の食生活にオリーブを取り入れてもらったり、町民活動でオリーブに関連した活動を支援するなど、農業・産業部門だけでなく町内あげてオリーブを盛り上げる流れを作る必要があると思う。</p>					
<p>最近ではスマート農業などの取り組みも進んでいるので、そういった新しい農業のテスト地として場所を提供して、社会に貢献できるようにするとともに、その取り組みを通じて二宮町の魅力を知って頂くのもよいのではないかと。</p>					
<p>KPI③（有害鳥獣の捕獲数）の計画数設定と、目標（地域農林業の活性化）との関係が明瞭ではないように思われ（なぜ100でないといけないのか）、場合によりほかのKPIを設定するのがよいのではないかとと思う。ただ、捕獲を頂いていることについては、被害の低減につながっていることは間違いなく、有難く思う。新しく農地化した面積などをKPIにするのは難しいのだろうか。</p>					
<p>遊休地等の活用をもっと積極的に取り組んでいく必要がある。</p>					
<p>毎日、JA湘南へ野菜を買いに行っており、よく農家の方と話すが、後継者がおらず、ご本人も高齢になってきているため、作付けを減らして対応しているかたが何人もいらっしゃる。15年ほど前、野菜の卸加工会社の経営を任されたことがあり、蕎麦屋のチェーン店へ軟白葱を年を通じて納品するため、札幌、岩手、鹿児島に契約栽培をお願いしていたが、特に岩手農協が問題で、青年部の主体が70代、あと10年経ったらどうするんだろうと心配したが、同じことが二宮でも起きているんだなと実感している。親族での後継者がいない場合には、集団経営か農業経営に興味を持っている方を見つけ出すこと、その紹介事業は重要となる。毎日、新鮮な野菜を生産者の顔が見える形で入手できるのは、二宮に住んでいることの大きな魅力である。</p>					